

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3690300037		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム青空		
所在地	徳島県小松島市中田町字新開52番地		
自己評価作成日	平成24年7月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年9月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業者内で勉強会を開催したり、外部の研修に参加したりして、認知症ケアの知識や技術、感染症に関する知識を身につけ、ケアの質の向上に取り組んでいる。利用者の外出の機会を設けている。季節の行事を行ったり、ボランティアの来訪を受け入れたりして、楽しく毎日を過ごすことができるよう支援している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、近くに桜並木や四季折々の花が見られる遊歩道があり、いながらにして自然の移り変わりを感じることが出来る場所にある。また、近隣には二つの公園があり、気候の良いときには散歩に出かけ、自然を楽しんでいる。外出したときに見せる、利用者の生き生きとした笑顔を大切にしたいとの思いから、様々な催し物やイベントを見つけ外出するよう努めている。また、事業所は、ボランティアや研修生の受け入れなども積極的に行い、利用者が外部の人達と触れ合うことを大切にしている。経営者や管理者は、職員の研修の大切さを認識しており、外部研修に参加したり協力医療機関での研修や職員間の自主研修に力を入れている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を共有し言葉かけや態度安全に配慮してお互いに日々の支援の中で話しあって実践にいかしている。	職員間で理念について話しあう機会を設けている。つねに理念を意識し、笑顔や心配りを大切にした支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの店舗にお買い物に行ったり近くにある、高校の実習生、ボランティア、他事業所での夏祭りに参加している。	地元の保育所や老人クラブ、地域のボランティアの受け入れを積極的に行い、利用者が地域と繋がりをもち生活することができるよう支援している。しかし、事業所として地域の活動や行事へ参加するまでには至っていない。	今後は、地域のなかの事業所として、地域の様々な活動に参加して交流を深められたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア来訪時や運営推進会議には、老人会、会長の出席もあり認知症についての理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の運営状況やサービスの取り組み等を報告し、評価やアンケート結果等開示しその他意見を聞きサービスの質につなげている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族や地域の代表者、市担当者等の参加があり、積極的に意見交換を行っている。出された意見等は、運営面やサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席時、事業所の取り組み等伝えている。わからない事があれば、電話や直接向いて相談等して協力関係を築いている	市担当者とは、気軽に話しあうことのできる関係を構築している。事業所の運営やサービスの実情等を伝えアドバイスを得ている。また、月1回、介護相談員の来訪がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	表玄関の自動ドアは中からも自由に開けられ外部に出られるようになっている。身体拘束についても勉強会もしている。又言葉による拘束についても話あっている。	身体拘束に関する勉強会を行い、職員間でその弊害について話しあっている。職員間で共通認識をもって、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、言葉による拘束についても話しあい、禁止や指示にあたる言葉は使用しないことを確認しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が日常の支援の中で身体、言葉の暴力が、ないかお互いに気をつけ合って勉強会等もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について勉強会があれば参加して、制度の内容について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類のすべてについて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃から利用者や家族の要望等を聞く機会を設けている(家族会、面回時、利用支払い時等)。苦情相談窓口のポスターを玄関に掲示している。意見箱も設置している。	家族との面会時などに、意見を聞くよう努めている。事業所便り“青空通信”を家族に送付して利用者の暮らしの様子を伝えるなどして、家族が気軽に意見や意向を表出しやすいよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見等に耳を傾け、対応可能な事は、意見等反映させてサービスの向上に取り組んでいる。朝礼時や勤務終了後のミーティング時にも職員の意見を聞きケアに生かしている。	毎週、職員間で勉強会を行い、日ごろのケアの課題や改善点等について意見を出しあい、検討を重ねている。出された意見は運営面に反映し、サービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週1回現場に来ており勤務状態等の把握に努めている。年2回の健康診断等行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にも積極的に参加できるよう(新人も含めて)とりくんでいる。内部研修は業務終了後に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの管理者にも運営推進会議に出席してもらい、お互いに情報交換し相互サービスの質の向上につなげている。職員同士の交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や事前情報で生活状況を把握するようにしている。サービス開始時にはなれない所での生活に不安があることを理解し、その不安を受け止め本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時家族の思いや要望等を聞き事業所としてどこまで対応できるか説明している。又面会に来られた時にも気付いたことなど等常に対話するよう心崖ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思いを確認し本人にとってどんな支援が必要か見極めて、サービス利用に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の色々な出来事にも共感し本人が安心して過ごせるように支援を行い、又楽しく日常生活が過ごせることが共有できるように関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、青空通信と日々の生活の様子を、お知らせの手紙を送付している。面会時にはホールや居室で一緒にお話をしたりして家族との時間を過ごしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している馴染みの美容室に行きカットや毛染めに行っている。本人や家族の希望があるときは、職員が行っている。	利用者の通い慣れた美容院や顔馴染みの商店等、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係を継続することができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、席替えをしたり、レクリエーション等楽しく参加できるように雰囲気作りをしている。食事の時ホールに来ていない人があれば食事の声かけに行ってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等してホームに帰って来られない時には利用者の所へ面会に行ったり退院後の事についても家族の相談や支援にかかわりフォローしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ一人一人の思いや意向等をお聞きしているが、本人が自分の思いや意向を伝えるのが困難な時は家族等から聞き取りし本人本位で、検討しサービスにつなげている。	利用者の思いや意向の把握が困難な場合は、時間をかけて本人の思いをくみとるよう努めている。また、家族からも話を聞いて、意向に応じたケアができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや本人との日々の会話の中からどんな生活をしてきたのか等の把握に努め、本人を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人一人の心身の状態を把握し、本人の不利益とならないようにできる事、出来ない事を見極め出来る事を把握し本人の有する力を発揮できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の方の思いや意見を聞き、反映させているが、本人の思いを聞くのが困難な時は本人にとってどんな支援が必要なのか検討して介護計画に生かしている。	職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで気づいたことなどを出しあって検討し、介護計画書に反映している。アセスメントとモニタリングを繰り返し行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で本人の状況が一目でわかるようにしている。又日誌やケア記録は日常の様子が分かるよう記載し職員間で共有しよりよいケアにつなげていけるよう実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に応じてよく話し合い理解してもらって柔軟に対応し必要なサービスにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーやボランティア、月2回の介護相談員さんの訪問や傾聴ボランティアの訪問等があり相談や話相手となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から協力病院の医師をかかりつけ医とする時には本人や家族の同意を得て納得してもらっている。本人の不利益にならないように対応している。	利用開始時に本人や家族と話しあい、同意を得たうえで協力医療機関の医師を主治医としている。主治医による週1回の往診や緊急時の対応等、密に連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で常に入居者の状態を把握し変化があれば管理者や看護師に報告し早めに病院受診等している。緊急時には緊急時対応マニュアルに沿って対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は入居時の様子や服薬状況の情報を提供している。又ホームに帰ってくるのが無理と判断した時は退院後の事については主治医と相談し本人や家族が不安のないように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルについては、入居の契約時に事業所の対応について説明している。長期入居の方についてもターミナルの件について家族と話あっている。	利用開始時の段階で、重度化や終末期の支援について事業所の方針を説明している。家族とよく話しあって方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練と一緒に人形をモデルにAEDの救急救命についての訓練をしている。事故発生に備えて、マニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、隣接する協力病院やケアハウスと連携できる体制を構築している。利用者参加で2、3ヶ月に1回昼、夜を想定した訓練を実施している。5月には近隣の企業やケアハウス、協力病院で合同の災害避難訓練を行った。	年1回、消防署の協力を得て避難訓練を実施している。2～3か月ごとに、利用者と職員による訓練も実施している。近隣の企業に協力を依頼したり、隣接の事業所や協力医療機関と連携を図ったりして、災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時の声かけに配慮している。何かをしてもらってうまくできない事があってもいつも感謝の気持ちを伝え本人が誇りが持てるよう対応している。	職員は、理念の“笑顔と優しさ”をもって利用者に接し、一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応に努めている。入浴や排泄、着替えの際には、誇りやプライバシーに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの気持ちを反映できるような場面作りをしているが、十分意思表示ができない人の場合は表情や反応を見て思いを汲むように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の気分で朝ゆっくりしたい人は朝の食事時間をずらしたり又大勢の中で食事をしたくない時は居室で食べてもらっている。一人一人の体調や気分に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時に着ていく服等迷っている時は中の良い、他入居者さんと職員と一緒に決めているスカーフをしたり帽子等も季節に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近くの魚屋さんに注文の魚を取りに行き昼夜の食材であることを伝えている。出来る人には、配膳の準備やテーブル拭き、お膳拭き等している。	利用者と献立について話したり、好みを聞いたりしている。調理では、利用者のできることを見だし、もやしの根切りやさやえんどうの筋とりなどの下準備、配膳、テーブル拭きなどの役割を担ってもらっている。食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事、水分量をチェックし把握している。栄養面を考えて献立にしている。食事量も一人一人に合わせた量にしている。水分量が足りない時はジュースとかポカリスエット等飲んでもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りで、出来る人はしてもらい、一部介助が必要な方には個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て、定期的にトイレ誘導を行っている。又本人の動作を見てトイレのサインをキャッチしトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導を行っている。利用者一人ひとりの自立度に応じた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で毎日排便の確認を行い必要時は、管下剤で調節している。食事は繊維の多く含んだ野菜等を取り入れている。牛乳は毎日ヨーグルトも適宜取り入れている。運動も適宜している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は出来るだけ本人の希望(午前午後)に沿って入ってもらっている。入浴中は会話(昔の)を楽しみながら入っており湯加減等一人ひとりの好みに合わせている。	利用者一人ひとりの希望に応じた入浴の支援を行っている。利用者の羞恥心や恐怖心に配慮し、会話を楽しみつつ入浴してもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室温度の調節や就寝前のトイレ誘導等を行い、ゆっくり休めるようにしている。冬場、希望者には、湯たんぽ等御している。お昼寝したい人は適宜にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬している薬情報を1F、2Fホールやスタッフルームに置いていつでも必要な、情報が得られるようになっている。日々の生活の中でも身体状態の変化の把握し早めに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る人には洗濯物やおしぼり置、テーブルを拭いてもらったりお膳などを拭いてもらったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に本人からの希望がない時でもサーカス等珍しい物があると見に行ったりしている。又渦潮等も見に行き外食等している。	周辺の公園や遊歩道を利用して、よく戸外へ出かけている。また、様々な催し物やイベントに参加したり、外食の機会を設けたりして、利用者が生き生きと笑顔で過ごせる時間をもてるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を自分で持っていたい人には自分で持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	娘さんや息子さんの声を聞きたいが、自分では、電話を掛けられない人には職員がスタッフルームから電話をかけてゆっくりお話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に植物を置いている。季節感が、わかるようにホールにひな人形や5月人形こいのぼりなどがざっている。寒い時の入浴は脱衣場や浴室を温めて身体に負担が、かからないようにしている。	共用空間は明るく、清潔な環境となっている。ホールの大きな窓からは、四季の移り変わりを感じることができる。玄関や廊下に植物を飾ったり、利用者の作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間と居間は一体的な作りでソファを置いているのでソファに座りテレビを見たり、雑誌を見たりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた身近な者を持って来られて使っている。写真、人形時計等を筆筒の上の置いている。	利用者は、居室に家族の写真や人形を飾っている。また、利用者一人ひとりに使い慣れた物品を持ち込んでもらっており、居心地よく過ごすための工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室の作りは段差のないように作られており又階段にも手すりがあり上り下りしやすくなっている。自分のお部屋やトイレの位置がわからない人には目印をつけてわかりやすくしている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を共有し言葉かけや態度安全に配慮してお互いに日々の支援の中で話しあって実践にいかしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近くの店舗にお買い物に行ったり近くにある、高校の実習生、ボランティア、他事業所での夏祭りに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア来訪時や運営推進会議には、老人会、会長の出席もあり認知症についての理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の運営状況やサービスの取り組み等を報告し、評価やアンケート結果等開示しその他意見等を聞きサービスの質につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席時、事業所の取り組み等伝えている。わからない事があれば、電話や直接出向いて相談等して協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	表玄関の自動ドアは中からも自由に開けられ外部に出られるようになっている。身体拘束についても勉強会もしている。又言葉による拘束についても話あっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士が日常の支援の中で身体、言葉の暴力が、ないかお互いに気をつけ合って勉強会等もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している人がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類のすべてについて説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は日頃から利用者や家族の要望等を聞く機会を設けている(家族会、面回時、利用支払い時等)。苦情相談窓口のポスターを玄関に掲示している。意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見等に耳を傾け、対応可能な事は、意見等反映させてサービスの向上に取り組んでいる。朝礼時や勤務終了後のミーティング時にも職員の意見を聞きケアに生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週1回現場に来ており勤務状態等の把握に努めている。年2回の健康診断等行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にも積極的に参加できるよう(新人も含めて)とりくんでいる。内部研修は業務終了後に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの管理者にも運営推進会議に出席してもらい、お互いに情報交換し相互サービスの質の向上につなげている。職員同士の交流は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や事前情報で生活状況を把握するようにしている。サービス開始時にはなれない所での生活に不安があることを理解し、その不安を受け止め本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時家族の思いや要望等を聞き事業所としてどこまで対応できるか説明している。又面会に来られた時にも気付いたことなど等常に対話するよう心崖ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況や思いを確認し本人にとってどんな支援が必要か見極めて、サービス利用に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の色々な出来事にも共感し本人が安心して過ごせるように支援を行い、又楽しく日常生活が過ごせることが共有できるように関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、青空通信と日々の生活の様子を、お知らせの手紙を送付している。面会時にはホールや居室で一緒にお話をしたりして家族との時間を過ごしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用している馴染みの散髪屋さんに行き散髪している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間関係を把握し、席替えをしたり、レクリエーション等楽しく参加できるよう雰囲気作りをしている。食事の時ホールに来ていない人があれば食事の声かけに行ってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等してホームに帰って来られない時には利用者の所へ面会に行ったり退院後の事についても家族の相談や支援にかかわりフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ一人一人の思いや意向等をお聞きしているが、本人が自分の思いや意向を伝えるのが困難な時は家族等から聞き取りし本人本位で、検討しサービスにつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや本人との日々の会話の中からどんな生活をしてきたのか等の把握に努め、本人を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で一人一人の心身の状態を把握し、本人の不利益とならないようにできる事、出来ない事を見極め出来る事を把握し本人の有する力を発揮できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の方の思いや意見を聞き、反映させているが、本人の思いを聞くのが困難な時は本人にとってどんな支援が必要なのか検討して介護計画に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で本人の状況が一目でわかるようにしている。又日誌やケア記録は日常の様子が分かるよう記載し職員間で共有しよりよいケアにつなげていけるよう実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状態に応じてよく話し合い理解してもらって柔軟に対応し必要なサービスにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議のメンバーやボランティア、月2回の介護相談員さんの訪問や傾聴ボランティアの訪問等があり相談や話相手となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から協力病院の医師をかかりつけ医とする時には本人や家族の同意を得て納得してもらっている。本人の不利益にならないように対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で常に入居者の状態を把握し変化があれば管理者や看護師に報告し早めに病院受診等している。緊急時には緊急時対応マニュアルに沿って対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は入居時の様子や服薬状況の情報を提供している。又ホームに帰ってくるのが無理と判断した時は退院後の事については主治医と相談し本人や家族が不安のないように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合やターミナルについては、入居の契約時に事業所の対応について説明している。長期入居の方についてもターミナルの件について家族と話あっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練と一緒に人形をモデルにAEDの救急救命についての訓練をしている。事故発生に備えて、マニュアルを整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、隣接する協力病院やケアハウスと連携できる体制を構築している。利用者参加で2、3ヶ月に1回昼、夜を想定した訓練を実施している。5月には近隣の企業やケアハウス、協力病院で合同の災害避難訓練を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時の声かけに配慮している。何かをしてもらってうまくできない事があってもいつも感謝の気持ちを伝え本人が誇りが持てるよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの気持ちを反映できるような場面作りをしているが、十分意思表示ができない人の場合は表情や反応を見て思いを汲むように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の気分で朝ゆっくりしたい人は朝の食事時間をずらしたり又大勢の中で食事をしたくない時は居室で食べてもらっている。一人一人の体調や気分に配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時に着ていく服等迷っている時は中の良い、他入居者さんや職員と一緒に決めているスカーフをしたり帽子等も季節に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近くの魚屋さんに注文の魚を取りに行き昼夜の食材であることを伝えている。出来る人には、配膳の準備やテーブル拭き、お膳拭き等している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	男性で食事時にビール等飲みたい人はノンアルコール等飲んでもらっている。朝食にパンを好む人にはパンとコーヒーにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りで、出来る人はしてもらい、一部介助が必要な方には個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て、定期的にトイレ誘導を行っている。又本人の動作を見てトイレのサインをキャッチしトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で毎日排便の確認を行い必要時は、管下剤で調節している。食事は繊維の多く含んだ野菜等を取り入れている。牛乳は毎日ヨーグルトも適宜取り入れている。運動も適宜している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は出来るだけ本人の希望(午前午後)に沿って入ってもらっている。入浴中は会話(昔の)を楽しみながら入っており湯加減等一人ひとりの好みに合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室温度の調節や就寝前のトイレ誘導等行い、ゆっくり休めるようにしている。冬場、希望者には、湯たんぽ等御している。お昼寝したい人は適当にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬している薬情報を1F、2Fホールやスタッフルームに置いていつでも必要な、情報が得られるようになっている。日々の生活の中でも身体状態の変化の把握し早めに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	拭き掃除が好きな人には廊下の手すり等拭いてもらったり掃除機をかけた後モップ等で拭いてもらっている。洗濯もの干し、洗濯たたみ等もしてもらっている。季節によって近道を散歩等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に本人からの希望がない時でもサーカス等珍しい物があると見に行ったりしている。又渦潮等もみに行き外食等している。お寿司が食べたいと言う人にはお寿司等食べに行ったりしている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を自分で管理できる人にはしてもらっている。移動のパンやさんが近くに来た時はパンを買いに、行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階に公衆電話があり電話をかけたい時は、降りてきて家族に掛けたりしている。年賀錠等も出したりできるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に植物を置いている。季節感が、わかるようにホールにひな人形や5月人形こいのぼりなどがざっている。寒い時の入浴は脱衣場や浴室を温めて身体に負担が、かからないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間と居間は一体的な作りでソファを置いているのでソファに座りテレビを見たり、雑誌を見たりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた身近な者を持って来られて使っている。写真、人形時計等を筆筒の上の置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室の作りは段差のないように作られており又階段にも手すりがあり上り下りしやすくなっている。自分のお部屋やトイレの位置がわからない人には目印をつけてわかりやすくしている。		